

「留学生 30 万人計画」実現に向けて大学院重点化が推進され、日本の大学院に進学する留学生数は年々増加していますが、入試において重視される研究計画書の作成については、多くの留学生から書き方や準備のしかたが分からないといった声が聞かれ、また、指導にあたる日本語教育機関関係者からも指導の指針となるような教材の開発が広く求められてきました。

本書は、大学院進学を目指す日本語能力試験 2 級レベルの留学生を主な対象に、クリティカルライティング・リーディング、情報収集・処理のスキルを育成しながら、タスクを通して実践的に研究計画書が作成できる体験型テキストです。豊富なタスクで「学習者が主体的に考え行動する」形式をとっており、独習や個別指導だけでなく、一斉授業でも扱いやすくなっています。

また、本書では、日本語力の強化とともに、研究計画書で測られる研究への適性（課題発見・分析力、論理的・分析的思考力）を高めるべく、様々な情報収集のストラテジーを提示し、論理思考のトレーニングを多く取り入れています。思考のプロセスや抽象概念を分かりやすいイラストで視覚化し、楽しく学べるのも本書の特徴です。



本書の全体構成

本書は以下のような 3 部構成になっています。

・第 1 部「研究計画書を書こう！」

研究課題を決めるために必要な「考え方」のトレーニングを行うとともに、研究計画書の構成や表現など日本語による論理的な文章の書き方を身につけます。

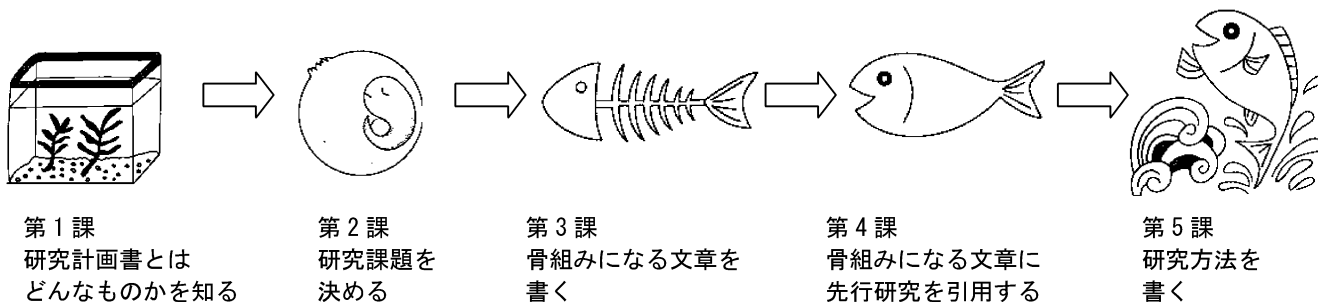
・第 2 部「口頭で説明しよう！」

研究計画のプレゼンテーションのしかた、大学院入試の際の口頭試問での受け答え方など、日本語による口頭表現力を身につけます。

・第 3 部「情報を収集しよう！」

専門知識を広げるための論文検索のしかた、指導教員の探し方など、大学院での研究に必要なさまざまな情報を収集するためのテクニックを身につけます。

また、本書の中心となる第1部は、第1課～第5課まであり、次のような手順で「研究計画書」を執筆します。



各課の流れ

各課は以下の「STEP」で構成されています。



また、STEPの順番は基本的に次のようになっています。

①研究計画書のモデルを見る

モデルの研究計画書の形式や構成、文章に使われている表現などを部分的に取り出して、書き方や思考のプロセスを追体験し、学習目標を確認します。

②タスクで練習する

①で理解したことを一般的な内容で練習し、研究計画書の一部が書けるようにします。タスクには共通の問題と、「☆発展」マークのついた発展問題があります。発展問題には言葉の英訳がないので、日本語が難しかったり、時間がないという場合は、後回しにすることもできます。

③執筆メモを書く

別冊のワークブックに進み、自分の研究計画について実際に書いてみます。第1課から順に執筆メモを書き溜めていくと、無理なく研究計画書を完成することができます。